

ガイドボランティアが体験した

# 伊勢湾台風

伊勢湾台風から令和6年9月26日で65年が経過しました。このコーナーでは、現在ガイドボランティアとして活躍しているメンバーの被災体験を紹介します。

## ⑪ 何でもない食べ物が絶品

伊勢湾台風の日には両親と姉、祖父と家にいたが、土間に水がヒューッと流れ込んできた。父は「大変だ!」と言って、外にあった木舟が流されないよう確保しに行った。自宅は玄関を改築して中二階の部分を作っていたので、自分たちは布団をそこに上げた。上げ終わった頃に畳が水に浮いて、プカプカしだした。もっと水が上まで来るかもしれないと思って畳を中二階に上げたが、幸いそこまでの浸水で済んだので、そのまま就寝した。

翌日は舟で、飛島村にあった母の実家に向かった。そこで食パンを一切れもらって食べたが、ごく普通の食パンがびっくりするほどおいしく感じた。被災という衝撃的な状況から、食べ物を食べられるような状況に好転したからかもしれない。忘れられない印象的な出来事になった。

自宅はフキの農家をしていたが、畑が浸水してしまっただけでは生活が成り立たなくなってしまう、兼業農家になった。弥富の風景は小学校のころは砂浜のような印象だったが、伊勢湾台風を機にずいぶん変わったと思う。馬ヶ地、市野守（当時中学2年生）



## 市長の部屋

空の青さが夏らしく輝きを増してきました。  
皆さま、お元気でお過ごしのことと存じます。

さて、7月は旧暦では『文月（ふみづき）』と呼びます。その由来には諸説ありますが、「7月7日の七夕に詩歌を献じたことや、書物を夜風にさらすといった風習から」という説があります。

短冊に願いごとを書いて、笹竹に飾り付ける「七夕」は、奈良時代に中国から伝わりました。その際、中国で7月に行っていた「書物と衣服を虫干しする習わし」も共に伝わったとされています。

私の地元、五之三新田・川平神楽保存会では、中下旬の日曜日に神楽や梵天などの虫干しを行い、10月に行われる五穀豊穡を祈る秋まつりのお囃子の練習も始まってまいります。私も法被を着て青年会メンバーとして参加します。

結びに、  
七夕のころ小暑を迎え、本格的に夏の厳しさが始まります。そして、7月23日ころには大暑となり、夏の最も暑い時期に入ります。しばらくは厳しい暑さが続きそうなので、お身体を大切にしてください。

弥富市長 安藤正明

